

みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱい森

能ヶ谷西緑地だより

2022年 7月 1 日号 270 号 能ヶ谷西緑地・樹の会

【7月の予定】

◆7月9日（土）（雨天翌日）

・花広場 草刈り

◆7月23日（土）（雨天翌日）

・中央広場 草刈り

・暑気払い

* 9:00 現地集合（9:00～11:30）

◆7月2日（土） 10:00～12:00

やままゆ連・手作りカフェー

平和台集会所

（コロナ状況によっては中止の場合もあります）

問合せ：伊藤（735-8623）

どなたでも参加自由です。

作業には汚れても良い服装でおいでください。



なところではそのようなことはできないし、わなに無数のカシナガが入っていることから無意味とは言えないのではという意見で、今まで通り続けることに決定。作業日にお茶当番の人がわなに石鹼水を補充することにする。

（宇野）

6月18日（土）曇り 参加者 6名



テングス病の竹

桜広場の竹藪に伝染病の「竹のテングス病」が発生。笹の部分が集まり塊をつくってしまいドンドン広がってしまう。具体的な作業は、枯れたものはその場で枝を落とし、土留めに利用、緑が残っているものは中央広場まで引きずっていき、集め置きした。

高温多湿であせだらだら。差入れの冷たいコーヒーの美味しかったことよ。

（設楽）

※※※※※※

緑地だより

※※※※※※

6月11日（土）曇り 参加者 10名

朝早く雨が降っていたがその後止み、予定通り小田急住宅下の草刈をする。いつものようにSさんとFさんが刈り払い機でどンドン刈り、女性陣は鎌で塀際や木の周りを刈る。山百合の茎があちこちにのびていて今年も華やかで香り高い花が見られそう。竹林では竹の子が道にまで生えてきているので間伐のため折り取る。真竹の竹の子は孟宗竹に比べると細いのでポクッというような感触で簡単に折れるのが面白い。

作業の後のお茶はKさん作の緑地のお茶の葉と矢車菊の花（喉にいい）を混ぜたお茶とOさんお手製の蔞の砂糖漬けを味わいつつ、「現代農業」7月号にでていながら枯れの記事について話し合う。緑地でも取り組んでいるカシナガキクイムシ（以下、カシナガ）の侵入や飛出しを防ぐわなと幹にまきつけるフィルムについて、すべての木につけられないし、木全体を覆うこともできないから無意味で、それより森全体のことを考え太さ10cm以上の木はすべて伐採し小さく割って乾燥させることがよいという内容だ。正論だが人手も資金も足りない我々のよう

6月25日（土）晴 参加者11名

早くも熱い夏が来たような天気。酷暑日が予報されている中、小田急住宅擁壁下の雑草刈りを行うが、クズなどのツタが草刈り機にからみつき、その都度機械を止めツタの除去を行うので効率が悪い。ツタが繁茂する箇所は5月中に草刈りを終わらした方が良いが、緑地内の作業箇所が多く、草木の成長に追いつかない。木陰で水分補給をして一服、上を見上げると合歡の木にピンク色の花が咲いており、さらさらとした葉と合わせ、よく見ると上品で綺麗な木である。下向きの草刈りに注力しているとなかなか気づかなかった。

（藤井）



ネムノキ

【やままゆ連・手作りカフェー】

カラムシ

5月7日（土） 平和台集会所

この日はカラムシの繊維取りを中心に活動しました。Fさんと2人のお孫さんは一緒に、カラムシ採りから参加。お孫さんたちは繊維の取り方に興味津々です。恐る恐る道具を使いながらも、繊維が取れたときには満足そうでした。

取った繊維を紐に撚る人、みょうがの葉を紐に撚る人、芭蕉の糸を撚る人など、それぞれに活動しました。

作業をしながら、前日、近県で降った雹の話に。雹は5mm以上の大きさのものをいい、それより小さいものは霰ということ。霰は冬の季語なのに、雹の季語は夏だということも分かりました。

Fさんのお孫さんが、やままゆ連や西緑地の活動体験を経て、どんな大人になってくれるのか楽しみです。

やままゆカフェー：のし梅

（齋藤好子）



カラムシ作品



苧引き

【緑地を楽しむ本】

『トナカイに生かされて シベリアの遊牧民ネネツ』

たくさんのふしぎ 2020年11月号

長倉洋海 写真/文 福音館書店



私は北海道生まれで、アイヌの人達の生活にある程度関心がある。アイヌは狩猟生活を営み、自然を大事にして生きてきた。

ネネツの生活はアイヌに似たところもあるが、ほとんどをトナカイに依存していると

ころがすごい。ネネツの神話では「神は人間を創り、火を与え、人が生きていけるようにトナカイを与えた」とあるそうだが、本当にその通りなのだ。

ツンドラ地帯に住むトナカイを家畜として飼っているのは、スカンジナビア半島とシベリアだけである。

トナカイは生活物資を運搬し、肉を与えてくれ、血も貴重な栄養源である。皮はテントや衣類になる。トナカイを売って現金も得られる。ネネツの人々にとって、トナカイは家族のような存在だという。

人間の生活の多様さ、ネネツの知恵の深さに感動するとともに、このような生活が続けられるように、祈りたい気持ちになった。

（齋藤好子）

緑地の虫たち

【緑地に咲く】ヤブムラサキ（藪紫）



クマツヅラ科の落葉低木。山地に生え、葉や花に毛が密生する。葉は長楕円形で先はとがり、対生。夏、葉の付け根に淡紫色の小花を密につける。実は熟すと紫色になり、ムラサキシキブに似ている。本州宮城県以南、四国、九州に分布。

（長谷部）



ホシハラビロヘリカメムシ



ルリチュウレンジ

【緑地の樹】

ブラックベリー（Blackberry）

プロフィール：バラ科 キイチゴ属の落葉性、つる性植物

花広場の小田急住宅下壁のムベ棚の傍に1本、ブラックベリーの木がある。北アメリカやヨーロッパ原産の木苺で、小さな粒が丸くまとまった実が7月頃、黒赤色に熟しても実が落ちない。（ラズベリーは実が落ちる）19世紀から改良が始まり、品種が多いそうだ。



ブラックベリー

5月下旬～6月頃、白か薄ピンクのノイバラのような花が咲く。

多くはジャムに加工されるそうだが、私は種毎、生で食べるのが好きだ。

秋には紅葉する。

（星）



黒くなったら食べ頃です

- ◆ 緑地内は自然緑地として保全をしています。怪我しないよう十分に気をつけて楽しんでください。
- ◆ 「緑地だより」編集：小川 TEL/FAX：796-1801（ご意見がありましたら小川までお寄せください）

「能ヶ谷西緑地・樹の会」のHP（毎月末に更新）
<http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/>
配信希望の方は、小川まで(ogamariko@gmail.com)